

事例・教材 数のいろいろな表現方法

狙い・ターゲット： 足し算や引き算など数の操作はよく出来るし、数概念もあるのに、数字ではない言い方だと分からなくなってしまうお子さんに、「こんな表現もあるんだよ！」と言う事を遊びながら、言い回しに慣れてもらう遊びのご紹介です。



わなげ 点数表									
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
上から入った番号に○			○			○	○		○○
下から2番目の数字に○							○		

わなげ 点数表									
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
上から入った番号に○									
下から2番目の数字に○									

わなげ 点数表									
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
上から入った番号に○									
下から2番目の数字に○									

わなげ 点数表									
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
上から入った番号に○									
下から2番目の数字に○									

使用教材

・ニチガン社 デッキわなげ、Excel で作った自作の点数表

内容

・ $10 - 5 = 5$ と引き算の計算ができ、「ボーリングのピンが10本立ってたけど、一回目ボールを投げたら4本倒れたね。いま立っているピンは何本かな？」という文章題も出来るのに、数ズバリではない言い方をすると「この言い方だと分からない？なんで？」と思った経験はありませんか？

数ズバリではない言い方というのは例えば、

- ①卵ケースに入っている卵10個あるよねえ。半分こっちのお皿に移してね。
- ②6個のイチゴを2つのお皿に同じ数ずつ分けてね。
- ③1、2、3、4、5、6、7の数で上から2番目の数字のカードを頂戴ね。

のような・・・

「半分」「同じ数」「上から何番目」という言い方をされると途端に分からなくなってしまうお子さんって、割と多くお見受けします。例えば①の場合は、卵ケースから半分の5個ではなく、6個も7個もお皿に置いたりするのです。

また、②の「同じ数ずつ」だったら、1個ずつ夫々のお皿に配分して行けば間違えないはずですが、同じ数ずつという言い方がわからないのでしょう。

そんな子達でも数字ズバリならわかるのです。「10個ある卵のうち5個をこっちのお皿に頂戴ね」というと迷うことなく5個お皿に入れてくれます。普段から数を表す色々な表現に触れていないこともあるのでしょう。

今回ご紹介するのは、上から何番目、下から何番目の数の理解を、お子さん達と遊びながら表現方法に慣れてもらえる遊びの紹介です。

方法（補足）

・等配分は「こっちのお皿に一個。こっちのお皿にも一個、のように一つ一つ確認しながらお皿に分けていったり、「半分こ」、は半分にして両方とも同じ数であることを一緒に確認したりして何度か遊ぶと次第に理解に繋がっていきます。

・上から何番目の数、というのは相手と点数を競うわなげで、一番大きい数ではなく、上から2番目、又は3番目の数で競う、という採点方法を取り入れたら、割とすぐに学習できました。

・わなげボードは1～9までの数字があります。輪をいくつか（3つ以上が良い）投げます。どの数字に輪が入ったか、表に○を付けていきます。そして、上から2番目（または下から2番目など）の数字で相手と競い合います。

・ある子どもが投げた輪が9に2つも入ったのに、上から2番目の数字が4で、相手の子どもが投げた輪が6と5だとせっかく9に入っているも負けてしまうので、全部投げ終わるまで勝敗が分からないところがとても盛り上がります。馴れないうちは、わなげボードの他に点数表を用意すると視覚補助として有効です。上から何番目を学べる紙ベースの教材も沢山出ていますが、たまには、わなげボードなどで点数を競う遊びもたのしいですよ。

・わなげデッキをお持ちでない方に・・・ボーリングのピンに番号を付けて倒れたピンのうち、上から2番目の数字は？という遊びでも代用可です！

輪を投げたり、ボールを当てたり・・・と少し身体を動かしながら遊ぶと楽しいですよ。